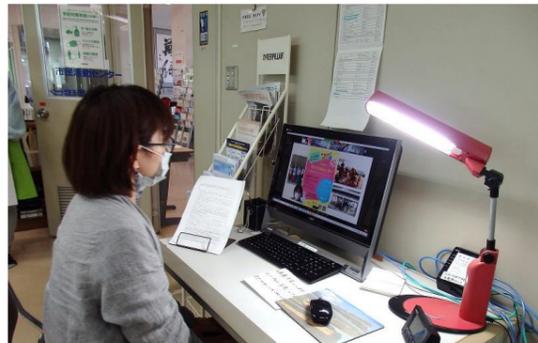


続いて団体助成のプレゼンです。新規登録6団体とすでに登録いただいている2団体の発表です。今回はオンラインということで、寄付投票は行わず、助成額は一律2万円です。



みらいへのいっぽ(東員会場)

こども食堂が大切にしていきたいこと
 ・みんなでご飯を食べよう ・持ちつ 持たれつの関係
 ・『ただいま』『おかえり』が当たり前と言える居場所

NPO 法人快生教学会(オンライン)

すべての人々が健やかに暮らせる社会の実現を目指して訪問介護事業ハートキャッチいなべの運営、認知症予防かんの主催のオレンジカフェ、みんなの居場所づくり地域の縁側・縁結び、4月から訪問介護事業所縁結びを開所。

いなべ子育てネットワークいなこね(いなべ会場)

地域でつながる地域ネットワークづくり、いなべママ夢プロジェクト、いなこねチャレンジショップオープン・委託販売やサロン・ワークショップスペースなど、様々な人が交流できる場所を作る

ママの隠れ家かいじゅう日和(いなべ会場)

ママの時間を一緒に作りませんか
 未就園児のママを対象にサポート、子育ての不安や疲れを癒すお母さん同士の交流の場、リフレッシュできるイベントを開催。

コミュニティハウス縁(桑名会場)

年齢問わず地域のご縁でつながる交流の場、子育て、学び合い、助け合い、縁で過ごしてよかったなという場所の提供。

三重パソコン要約筆記サークルことのは(桑名会場)

要約筆記とは聴覚障害者、難聴者、高齢者など聞こえない、聞こえにくい方のための文字通訳。聞こえにくい人たちの社会参加をサポートする活動。

(おかあさんの会)あいうえお(桑名会場)

絵本の世界を一緒に楽しむ。パネルシアター、わらべ歌など様々な工夫。・絵本はともだち(幼稚園児以上)、・絵本とあそぼっ!!・あいうえおとあそぼっ!!(未就園児とその家族対象)

NPO 法人くわな発達支援塾(オンライン)

軽度発達障害や未診断でつまずきのある子どもたちを対象に心理カウンセリングの提供と個々のニーズに合った学習支援や運動支援、社会性の形成支援などの教育支援事業。

途中で、運営委員のいなべの里山を守る会の辻さんより「子育て応援、高齢者の生活支援と地域になくてはならない活動、皆さんの活動によって潤いのあるまちになっていくと思います。」

また、最後の団体の発表が終ると三十三総研の先浦さんより「各団体SNSなどを活用して積極的に情報発信している。社会的に不可欠な活動である。縁の活動は、少子高齢化により地域での関係性が薄れる中での重要な活動。ことのはは、難聴者の一層の社会参加の支援に期待。あいうえおは絵本を通じたコミュニティ活動の更なる発展。くわな発達支援塾は、子ども達の成長が地域の活力に。」というコメントをいただいた。

続いて、パートナー助成のプレゼンです。2事業のエントリー。助成額は1事業3万円です。

☆「子どもと女性の安心ネットワーク創り」CAPみえーエンパワメントみえ他8団体

「桑名地区の関係団体と一緒に、子どもと女性の包括支援を行うことが目的。課題によってはセンターの中にワーキングチームを作り対応。さらにスーパーバイザー機能も持たせてより早い解決に向かう。」

☆「日本で生まれた大正琴体験プログラム」シニアカレッジくわな-大正琴グループ精琴会

「市民活動団体との交流の中で精琴会と知り合い、カリキュラムに入れることができた。大正琴の歴史・構造・弾き方を体験し素晴らしい音色を楽しんでもらいたい。」

デンソー大安製作所森さんのコメント「子どもと女性の安心ネットワークは、行政の手の届かないところで命にかかわる問題を抱えている方々の最後の砦として大切な役割を担っている。たくさんのパートナー団体と協力運営することで安心ネットワークを強くすることができる。」「シニアカレッジ2021大正琴プログラムは、文化的な活動で心豊かに、自らが元気に過ごし、さらにまわりに元気を広げる活動。」



この地域の未来を担う「高校生の地域社会貢献助成」に桑名北高校と桑名工業高校の2高校がエントリー。2校ともオンラインの発表。助成額は、1高校2万円。

☆桑名北高校「人が育つ、学校が育つ、地域が育つ、わくわくコミュニケーション」

「コミュニケーション授業は、学校でのコミュニケーションワークと保育園児とのわくわくコミュニケーションの2つで構成。コミュニケーション授業は、気づき、改善し、試し、自分で考え、パートナーと一緒に成長する授業。この経験を財産に社会へ貢献できる人材になっていきたい」

☆桑名工業高校「987MONOづくり工房」

「MONOづくり工房の理念は、ものづくりの楽しさを広めたい・学校の授業で学べない事にもチャレンジしたい・伝える事や地域の課題を解決する事により自分たちの知識や技術も高めたい。地域貢献や人に役立つ事をしたい。地域の活性化、相乗効果として目に見える形に。卒業後地域の担い手になれるように力をつける」

東員町副町長小川さんのコメント「地域に貢献したいと活動する両校の発表は非常に心強い。これからもぜひ、この地域に残って活躍していただきたい。」

そして、時間短縮のため、企業の社会貢献アピールは行わず、その代わりに、関わってくださっている企業スライドショーの上映。4分間の中にギュッと詰め込まれた企業のロゴマークや発表の風景、社会貢献活動の様子などを見て、改めて、多くの方に支えられているのを実感しました。

最後に、各会場で助成金を渡した後、さらさら基金副代表木下裕美子の主催者挨拶「はじめてのオンライン開催、無事にできた。さらさら基金は、寄付の文化の醸成と小さな市民活動を応援しようと始まりましたが、今日の発表を聞いてクリアできたと思います。これからはさらさら基金にご支援よろしくお祈りします。」

坂枝さんの絶妙の司会で、ほぼ時間通り全プログラムを終えることができました。



今回の助成総額は26万円。皆様から頂いた寄付は、30口 137,110円にもなりました。また、当日の募金箱には、11,286円も入っていました。サンタの行進やガチャポン募金で10,700円が集まりました。本当にありがとうございました。

他会場の様子

当日の様子は
こちらで→



東員会場からは、東員町長からの応援メッセージと、「みらいへのいっぽ」のプレゼンが行われ、盛り上がりしました。そして、スクリーンに映し出される他会場のプレゼンにも参加者が応援の拍手を贈って見入っていました。最後の記念撮影では、それぞれの会場の皆さんがスクリーンに映し出され、参加者全員が一つになった気がしました。ただ、交流面では東員会場の人たちのみとなり、他会場の人たちと交流を図りたい気持ちが残りました。スクリーンに映らない関係者も含め、多くの人たちへ周知できたこのオンラインでの開催はよかったと思います。

いなべ会場のトップバッターは、いなべ市長日沖靖様からのメッセージ代読の木下きらきら基金副代表。リハーサルには一度も参加のなかった副代表ですが、最後の主催者挨拶を含め、堂に入ったものでした。

いなべ会場からは、団体助成の発表が2つ。「いなこね」代表の服部さんは、待機中、木下副代表と女性活動家ならではの苦労話に花を咲かせていました。「かいじゅう日和」の西脇さんは、自作の紙芝居と横断幕を使い、わかりやすいプレゼンでした。

「かいじゅう日和」のお子様、いずれも女の子4人が、ロビーでにぎやかに遊んでいました。時々プレゼン用の部屋に飛び込んでくる子もいて、「かいじゅう日和」の代表藤田さんがまとめて面倒を見て頑張っていました。

桑員 まちのかわら版 第113号

2021年4月20日発行

3/6 市民活動応援☆きらきら基金第13回助成事業の様子と御礼

多くの方々のご協力を得て、コロナ禍の中、第13回きらきら基金助成事業を開催することができましたこと、御礼申し上げます。

今回は、桑名市、いなべ市、東員町の3会場と桑名北高校、桑名工業高校、そして各参加者様を結んで、はじめてのオンライン開催となりました。参加者は63名でした。

4月から運営委員会でコロナ禍の中での開催方法を検討してまいりましたが、9月に、発表会場をオンラインで結ぶ方針を決定しました。その実現のために、新たに専門家の方々とワーキンググループを立ち上げ、技術的なアドバイスを受けながら準備を行ってきました。

開催時間を短縮し、スムーズな進行を行えるように、会場の設営や通信状況の確認、発表団体のリハーサルなど、皆さまには繰り返しご協力を頂きました。

当基金代表の小笠原まき子からの挨拶、「コロナ禍の中でオンライン開催することで、つながり合い、協力し合うことができたのは素晴らしい。また、自分たちも大変な中、市民活動のためにたくさんの寄付をお寄せいただきました。皆さんの好意を大事に使わせていただきます。」

東員会場からは東員町水谷俊郎町長の「協働という言葉が定着してきましたが、課題も多い。その課題を一つ一つ解決して皆さんと一緒に地域づくりを進めていきたい。」という来賓挨拶をいただきました。三重県ダイバーシティ社会推進課阪靖之課長からは「コロナ禍の中、新しい日常に即した新たな試みでの開催を県としても応援していきます。」と、事前にZoomで録画するという試みでメッセージをいただきました。

続いて、いなべ会場からきらきら基金副代表の木下裕美子さんがいなべ市日沖靖市長のメッセージを代読。「きらきら基金を通じてお互いを知り、つながる良い機会になっている。団体が力を合わせることで、活動の場が広がり、地域の発展につながることを期待しています。」

最後に桑名会場から桑名市伊藤徳宇市長のメッセージを運営委員の白尾さんが代読。「社会環境が大きく変わる中で、様々な課題への対応が求められている中で、NPO、企業、行政がまちづくりのパートナーとして連携協働していくことは重要である。また、コロナ禍で新たな様式を取り入れ、市民活動の輪を広げ課題に当たることを期待しています。」



ねえねえ教えて！



みよちゃん

きらきら基金が助成する団体は、なにか基準があるの？
また、きらきら基金は、立ち上げたばかりの団体にも助成しているじゃない？
それって、ほかにはあまりないんだけど、それについて教えてほしいなあ!!



ゆさちゃん

きらきら基金の助成基準は「いい人がやっている団体」という他にはないユニークなものなのね。これが実現できるのは、桑名員弁地域限定で顔の見える関係づくりが可能だからよ。さらに、きらきら基金に登録するには運営委員の推薦が必要で、信用の担保は推薦者が担っているの。だから立ち上げたばかりの団体にも助成することができるの。



みよちゃん

う〜ん。いい人ってどうやって見分けるのかな。とってもむずかしそう。



まきちゃん

桑名市、いなべ市、東員町の各市民活動センターのご協力もいただいて、団体のキーマンを紹介していただき直接話すことで判断してるかな。その方がどれだけ地域の課題を解決しようとしているのか、その人の周りにどんな人が集まっているかなどを見ているかな〜